

アグリ | ワーク | ポイント



岡部営農経済センター 竹下達也

夏場の水田管理
について

ウンカ対策

昨年、JAおおいが管内ではトビイロウンカによる坪枯れ被害が多発しました。今年は**5月23日に静岡県内でも発生が確認**されました。梅雨入りも早く、ウンカの飛来に**好適な条件が継続**しているため、**今年もウンカが多発する可能性が高いと推測**しています。さらに、7月下旬以降に雨が少なく気温が高くなると、ウンカが増えやすくなるので、より注意が必要です。数が増えてからの防除では、効果が**高いと期待**されている薬剤でも殺虫しきれません。ウンカを多発生させないためにも、**予防に重点を置いた防除**が必要です。薬剤は、株元にかかるよう丁寧に散布してください。

また、長期間効果のある箱粒剤を使用した場合でも、**本田防除を行った方がよりウンカの発生を抑えることができます**。ウンカに効果的な箱粒剤を使用している場合や毎年発生が多い地域は、**必ず本田防除を行いましょう**。

防除適期

- 1回目 7月下旬～8月上旬
- 2回目 1回目の防除から10～14日後

防除薬剤

- 粒剤 トレボン粒剤 3kg/10a(収穫21日前まで)
- 液剤 エミリアFL 1000倍(収穫7日前まで)

水稲に対する猛暑対策

稲の過繁茂防止に努め、こまめな間断かん水を行い、根の機能活力維持を図りましょう。さらに、呼吸作用の増加を抑制するために冷たい水と入れ替え、地温と気温の低下に努めてください。特に日中の気温が35℃、夜温が25℃を超えるような日が続く場合は、かけ流しかん水が有効です。

間断かん水とは

浅水程度に水を入れ、その水が無くなっても、すぐに水を入れずに1～2日そのままにしておき、再び浅水程度に水を入れるという作業を繰り返す水管理の方法です。こまめな水管理によって収量と品質に差が出てきます。

穂肥の施用について

生殖成長期に移り、穂づくりの重要な時期です。穂肥を出穂2週間前までに行い、充分湛水して3日間は止め水で管理します。コシヒカリは倒れやすいため、他の品種より遅らせて施肥をしてください。葉色の落ちていない稲は、肥料分が残り倒伏の危険があるため、穂肥の施用を避けましょう。また、一発肥料を使った場合は、穂肥の必要がありません。